

施策No.	政策名	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	酒寄 久
305	施策名	文化財の保存・活用	関係課	商工観光課、学校教育課、都市整備課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
					見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値
・市民 ・桜川市内に存在する文化財		①桜川市人口	人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,190	42,571	41,952
					実績値	46,575	45,673	45,105	44,449	43,826	43,190	42,632
		②指定文化財数	件	見込値				124	124	124	125	125
					実績値	124	124	124	124	124	126	126
		③登録文化財数	件	見込値				104	104	99	99	99
					実績値	104	104	102	99	99	99	99
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
					目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
・郷土に対する愛着心や誇りが醸成される		①地域の伝統行事や文化財に親しみを感じている市民の割合	%	目標値			60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0
					実績値		58.3	55.5	51.2	50.8	47.7	49.3
		②文化財等を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合	%	目標値				90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
					実績値	90.3	90.2	89.9	89.5	89.9	85.0	83.7
<p>「郷土に対する愛着心や誇りが醸成される」は、①地域の伝統行事や文化財に親しみを感じている市民の割合は、実績値を60%に維持することにより継承できると判断した。②文化財等を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合は、市民の文化財に対する意識が高く、実績値の90%を維持することにより施策の意図が維持向上されると判断した。</p>												
<p>・対象指標については、 ①人口は、毎年10月1日の常住人口 ②指定文化財数は、国・県・市の3段階の指定区分からなる種類(名称)の数で、保存・修理に補助事業が可能 ③登録文化財数は、国に登録されている件数。規制が緩やかで、生活文化保護の両立を図る。 ・成果指標の①②については、市民アンケートに基づくデータである。</p>												

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の歴史・文化に関心を持ち、次の世代に伝えていく。</li> <li>○文化財の保護・保存・活用・継承に対し、積極的に行動する。</li> <li>○市内に保有されている様々な文化財の情報を行政に提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化財の調査・保護・保存・指定を行う。</li> <li>○市民への意識啓発を行い、市民が郷土や歴史への認識を深め、次の世代に伝える担い手になれるよう支援する。</li> <li>○案内板やパンフレットを充実させ、市内全体の文化財めぐりが可能となる態勢を整える。</li> </ul>
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けたことによる、観光客増が見込まれる。</li> <li>○2011.3.11の震災で歴史的建造物のうち90%が被害を受けている。1割の自己負担で修理できるが、所有者の高齢化、維持管理費の問題などにより、いずれ困難なケースがある。</li> <li>○ひなまつりが盛況になっている。町並み案内ボランティアによる案内を実施している。</li> <li>○文化財保護計画による計画的な保存をすることが求められている。(把握されていない文化財含む)</li> <li>○少子高齢化に伴い、地域の伝統行事や文化活動に参加しなくなっていることから、今後は減少していくと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市外からも寺社仏閣に対する問合せがある。</li> <li>○真壁城跡については、整備を進めるかどうか賛否両論がある。(議会)</li> <li>○特定の文化遺産以外の遺産についても消失の危機にあるものも見受けられる。文化財の一覧表がない、との意見がある。(住民WT)</li> <li>○地区別の伝統行事、文化遺産を子どもたちに伝える機会を計画する必要がある。との意見がある。(住民WT)</li> </ul>

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 文化財の保存	文化財	文化財を守り、後世に残す	指定文化財の数	実績値	124	124	124	124	126	126.0	126.0
				件							
② 文化財の活用	市民	文化財の大切さを知ってもらい、活用する	①文化財等を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合	実績値	90.2	89.9	89.5	89.9	85.0	83.7	85
				%							
				実績値	200	2,000	40,500	31,000	40,000	40,500	31,567
			②活用事業への参加者数(町並み案内、説明会への参加者数、資料館への来館者数)	人							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	26年度実績		27年度実績		28年度実績	
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
①本施策を構成する事務事業の数	件		23		22		19
②施策事業費(一般財源以外)	千円	194,692		127,611		118,284	
③施策事業費(一般財源)	千円	111,426		89,468		73,805	
④施策事業費の計(②+③)	千円	306,118		217,079		192,089	
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	33,637		23,104		30,957	
⑥計(④+⑤)	千円	339,755		240,183		223,046	

5. 施策に関連する主要事業等

関連する事務事業	区分	事務事業名	摘要
主要事業		史跡真壁城跡保存整備事業	後期基本計画主要事業
主要事業		伝統文化や祭り、歴史資源の保護継承事業	後期基本計画主要事業
事務事業		伝統的建造物群保存地区保存事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業		国指定史跡真壁城跡保存整備事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業		歴史資料館運営事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業		指定文化財修理事業	H27貢献度上位、H28優先度上位

施策番号	305	施策名	文化財の保存・活用	主管課	生涯学習課
------	-----	-----	-----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>①地域の伝統行事や文化財に親しみを感じている市民の割合は、24年度 51.2%、25年度 50.8%、26年度 47.7%、27年度 49.3%であり、28年度52.3%であり、増加した。          ②文化財等を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合 24年度 89.5%、25年度 89.9%、26年度 85.0%、27年度 83.7%、28年度84.7%であり、増加に転じた。          ・向上の要因は、継続的に続けてきた文化財の保存修理事業の完成度が高まることで、市民意識が向上したことが大きい。なかでも伝統的建造物群保存地区(真壁)や史跡真壁城跡発掘・整備、指定文化財(雨引山薬法寺、月山寺等の建造物等)の修理、歴史の道調査・活用などは、保存修理とともに新たな発見をともなう事業であるため、その公開普及活動などを通じて、市民意識の向上に大きく貢献している。また、名勝桜川を含めた市内ヤマサクラの保護・活用に取り組み市の姿勢が、市内全域から注目を浴びることにつながり、歴史と自然両面の重要性に幅広く目が向けられた結果、文化財保存活用に対する市民意識向上にも大きく貢献している。          ・活用事業への参加者数については、企画展示、歴史講座などを中心に、真壁伝承館歴史資料館の来館者数、歴史講座の参加など高レベルで維持し、市内外の交流人口も増加し、市民の参加意識も向上している。その要因としては、真壁の町並みや指定文化財紹介等の従来の歴史講座とともに、将来性のある事業を見出していることが大きく貢献している。特に歴史の道や城下町のウォーキング、真壁城跡の薬草・ハーブなど、人気が高い内容であり、今後のさらなる充実によって大幅な成果向上が見込める。</p>		

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①地域の伝統行事や文化財に親しみを感じている市民の割合は、28年度目標値60.0%に対し52.3%と7.7ポイント下回っている。その背景としては、人口減少等により市内各地の伝統行事や文化財継承者が不足する傾向が続き、市民の認知度の低下傾向が大幅には改善しにくい状況があげられる。          ②文化財等を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合は、28年度目標値90.0%に対し84.7%と5.3ポイント下回った。低下を防いでいる要因は、歴史講座や企画展示などで、身近な文化財紹介・修理事業を終えた文化財の一般公開等の開催によって、市民が文化財にふれる機会を多くしていることに加え、こうした活動や市内の文化財について、マスコミ等に取り上げられ、市内外の交流人口が増えたり、身近な文化財に注目する機会が増加したためと推測される。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>昭和53年から真壁町歴史民俗資料館を開館させるなど、長期的な文化財保護への取り組みが近隣自治体より進んでいた背景があり、文化財等を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合は、84.7%と高い。また、活用事業への取り組みやマスコミなどの広報活動も積極的に進めた結果、参加者数(町並み案内、説明会への参加者、資料館への来館者)や、交流人口が年々増加しているなど、良好な状況を維持している。市民や市外住民にも桜川市の魅力の一つとして文化財をとらえる認識が広まっており、他の自治体と比べても成果の高い水準を維持する要因となっている。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・文化財に親しみを感じている市民の割合が増加傾向に転じたが、その要因としては体験的な歴史講座や企画展といった、人気の高い普及活動を選択し、重点的に推進することで、住民の期待に答え、向上させることができた。そのことが期待より高い水準を維持し、市民意識の向上にもつながったと考えられる。          ・文化財等を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合は、高い水準を維持し、減少傾向から転じ、増加傾向となった。その要因としては、登録文化財制度や伝統的建造物群保存地区制度への取り組み、歴史的建造物に対する補助制度の充実、指定文化財の保存修理事業などの成果が目に見える形で継続され、公開されてきたことがあげられる。成果を見た市民は、文化財の継承が確実に進む状況を目の当たりにし、さらに高い水準を期待するようになったことが、増加傾向への反転につながったと考えられる。</p>		

7. 総合計画後期基本計画(H24～28)の振り返り

区分	これまでの取組成果
施策全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の所在や状況確認を進めることで、新たな文化財指定や修理の必要性などを把握し、文化財保護を進めている</li> <li>市民への文化財に対する啓発活動(展示、歴史講座など)を積極的に実施し、成果の維持向上に努めている。</li> <li>新たな文化財調査(資料館収集資料、歴史の道調査、史跡内薬草・ハーブ等)を積極的に行い、新たな文化財の発見と魅力の掘り起こしに努め、歴史講座、企画展示等に活かして、成果や市民の意識向上に努めた。</li> </ul>
基本事業	<p>①文化財の保存</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定文化財の保存修理及び補助の実施</li> <li>出土遺物等の保存処理実施</li> <li>寄贈・寄託品の受け入れ</li> <li>東日本大震災による被災文化財の修理及び補助の実施</li> <li>文化財等の新規調査・資料収集</li> </ul> <p>②文化財の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史資料館での展示開催</li> <li>歴史講座の開催</li> <li>小・中学校での出前授業の実施</li> <li>歴史の道の調査・ウォーキングイベントの開催</li> <li>国史跡真壁城跡の整備事業推進</li> <li>旧真壁郵便局の整備および公開</li> <li>旧高久家住宅の整備および公開</li> </ul>